

2016年

12月号

農林水産省
北海道農政事務所
北見地域拠点ず～むあっぴ☆
オホーツク

野付牛公園 北見市

取組事例パート1

～夫婦二人三脚で進める
大規模酪農経営とシンプルな6次産業化～

株式会社オホーツクファーム喜多牧場、みるとんはうす（紋別市上渚滑町）

株式会社オホーツクファーム喜多牧場（喜多俊晴さん、由美さん）は、紋別市上渚滑町で乳牛800頭を飼育する大規模経営の酪農家です。俊晴さんが経営を引き継いだ頃の70頭程から徐々に規模を拡大し、現在に至ります。飼養頭数に合わせて増棟した200mの直線牛舎は圧巻です。

また、平成25年からはミルクパーラーとして使っていた施設を改築し、肉や牛乳の加工施設と、食事もできる直売所「みるとんはうす」を開始。6次産業化に取り組んでいます。

喜多牧場入り口の看板
これを目印に！飼養頭数に合わせて増棟した
200mもの直線牛舎初乳とサイレージですくすく育つ
子豚たち

4人のお子さんがある喜多さんご夫婦は、酪農業が大規模化するにつれ、大型機械での作業が多くなり、また、防疫的な観点から、気軽な牛舎での触れ合いが少なくなったことを残念に感じ、「昔の動物を通したコミュニケーションの風景を作りたい」と、平成21年に豚やウサギ、ヤギを飼い始めました。

豚舎には牛舎の一部を使用し、餌は牛の初乳とサイレージ。酪農の資源をフル活用です。自由に歩き回り、すくすく育った12カ月齢の豚たちは、家族だけでは消費しきれないくらいのお肉の量！もったいないので販売したことが6次産業化につながりました。

さらに地域の方々から、「牛肉や牛乳は？」「ソフトクリームも食べたい！」というリクエストがあり、現在は豚肉の販売にとどまらず、豚肉・牛肉の加工品、チーズやプリン、ソフトクリーム等、自家で生産した原料を生かしたたくさんの商品ラインナップとなっています。

生産地で味わってもらふこと、そして、顔を合わせるコミュニケーションを第一に考え、通信販売は行っていません。とてもシンプルな販売形態です。

みなさんもぜひ、「みるとんはうす」へ足をお運びください。

地域の方が集う場所にもなっている
みるとんはうす

おいしいランチとお肉や加工品



手書きの看板がお出迎え



全国でも珍しい！

滝上町特産 七面鳥の生産・加工販売

滝上町七面鳥生産組合

採卵から飼育、加工・販売
までを手がける

昭和59年から、畑作農家の有志により、町の特産品を生み出そうと生産者6名で「滝上町七面鳥生産組合」を結成し、七面鳥の飼育という全国でも珍しい取組(国内では滝上町を含め3か所のみ)が始まりました。

昭和61年からは、町が農産品加工研究センターを新設し、七面鳥の燻製加工が開始され、現在では7戸の農家で約1,100羽を飼育しています。



【画像提供：滝上町】

ニラ・大根の葉等、畑作の副産物を食べやすく成長

全国から注文！リピーター多数！

11月下旬から、七面鳥をハーブ、スパイス等の調味液に約2週間つけ込んだ後、燻煙庫で約3時間スチームボイルし、桜のチップでいぶして仕上げていきます。

丁寧に加工され完成した燻製品は、色、つや、香りも良く、脂も乗って評判となっています。

毎年、クリスマス向けを中心に、全国に多くのリピーターがあり、予約で完売してしまうほどの人気ぶり。

また、最近では、滝上町のふるさと納税の返礼品に採用され、新規のお客様が增加しているそうです。

本格的に飼育されている七面鳥、ぜひ食べてみたいですね。



【画像提供：滝上町】

試行錯誤を重ね現在の味付けに

お知らせ

農観連携ビジネス創出シンポジウム

日時：平成28年12月8日(木) 13:00~17:30

会場：端野町公民館 多目的ホール
(北見市端野町二区471番地11)

第1部 オホーツク地域の農業と観光等に係る現状と課題

第2部 ワークショップ

参加無料 定員150名



編集後記

サンタクロースの存在を小学生になっても信じていた私。でも、おねだりの品が枕元にあったことはなかったな~(つご)